

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401277		
法人名	有限会社 あっぷる		
事業所名	グループホームありあけ		
所在地	長崎県島原市有明町大三東丙470番地1		
自己評価作成日	平成26年1月14日	評価結果確定日	平成26年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4271401277-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成26年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・掃除は床など全て手拭で、創立以来一度もワックスをかけたことはありませんがいつもピカピカです ・洗濯はまめにいき、週一回は寝具を洗濯して布団は日に干しています ・手作りおやつを心掛けています ・家族の交流を大切にしています
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>施設理念の笑顔で過ごすということが実践されており、施設に入る際に職員の挨拶と笑顔で対応してくれる明るくて元氣な施設である。また、施設内での掃除等が入念にされており床はワックスを掛けていなくても綺麗で風呂場では、入浴後毎日污水管まで洗うなどしており清潔な環境作りをしている。食事は、利用者1人1人に対応した刻み食や減塩食などを作っており様々な対応をしている。またおやつは手作りで、利用者の笑顔を引き出すようにしている。医療面では、透析や吸引の必要な利用者の受入を行っており、看護師が近隣に住んでいることから救急時にはすぐに看護師が対応できる環境を作っている。地域との繋がりが強く、職員の勤続年数も平均的に長く安定した運営を行っている施設である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員ひとりひとりが理念を理解し笑顔で安心した生活環境づくりを提供できるよう職員全体で話し合い、意見の統一を図っている	事務所や食堂などに理念の掲示をしており、職員同士で話し合いをするなどして理念を現実にするように心がけている。職員の勤務年数も長く、食事の際など見ている限り理念は職員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会員として祭り等に参加。回覧板でホーム便りを回してもらい様子を知らせたりゴミ置き場の掃除を定期的に行っている。 野菜の差し入れが多々ある	運営推進会議には自治会長がほぼ毎回出席している。また、率先してゴミ集積場の清掃を施設がするなどして自治会とのつきあいを率先して行っている。近隣の住民とも、日々の挨拶や話しかけを行っており日常的に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在取り組んでいる内容について報告し、意見をもらうようにしている	運営推進会議もほぼ2ヶ月に1回、行っており、利用者・家族・自治会長・役場の方がよく参加されており、事業や防災の説明等を行い意見の集約に努めている。	運営推進会議の議事録に参加者名の記入があったが、氏名だけの記載であった。第三者が見てもわかるように、〇〇市役所の〇〇等の記載をすることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所からの相談事項に対して実直に対応している	有明支所が近くにあり、申請や相談をしたりしている。また運営推進会議に出席してもらうなどして施設の実情などを積極的に伝えるようにしている。 利用者に生活保護者がおり保護課との連携も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送りノートやその日の申し送り等でひとりひとりのその日の気分や状態を全員できめ細かく把握し安全面に配慮して鍵をかけずに自由な暮らしを支援しています	職員に外部研修などを積極的に参加させており、参加した職員が会議の際に発表するなどして拘束をしないような意思の統一を取り入れている。また、過去にミトンなどを短期的使用した事もあったが、拘束ゼロを目指しており拘束をなくすように日々職員間で話を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修等に参加し職員会議で報告、資料も見られるようにしている。 職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか いつでも相談できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者研修等でそれぞれ学んではいるが入所前に代理人を決め、管理しているので相談等は今のところない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはケアに関する考え方や取り組み、対応可能な範囲についての説明、医療連携体制の実態などについても詳しく説明し同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会はほとんどりビングで職員も一緒に会話に参加し家族からの意見、要望等を気軽に話せる雰囲気になっている	家族が来所した場合には、必ず職員が利用者の状態を説明するなどして、家族から何か意見がないかを積極的に引き出すようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議でひとりひとりの意見を言える体制を作ってみんなで考え、運営につなげています。 職員間のコミュニケーションがうまくとれていて業務がスムーズに行われている	会社の代表が施設に頻繁に来所しており、職員に話しかけるなどして提案や意見を気軽に話せるような環境作りを行っている。また、月に1回は会議を行い、お互いに意見を出すようにしており、可能な事はすぐ実践するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。 職員の疲労やストレスの要因に気を配り個別に相談にのっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修会に多くの職員が受講できるようにしている。研修報告は職員会議で報告し皆で閲覧できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡会がありスタッフ研修を設けて質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が置かれている状況を理解し、思いや不安を受け止めて安心してもらうことから始めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解しどのような対応ができるか事前に話し合いをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、ほかの事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており普段から教えてもらうことが多く、そういった場面を多くもてるように工夫して声掛けに配慮している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には日頃の状態を報告し、家族と同じような思いで支援していることを伝えている。 来訪できない家族には電話で声を聞いてもらったり日頃の状態を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同級生が列車で1時間かけて会いに来てくれる。 ドライブに出かけるときは家の傍を通り思い出してもらっている	時には、ドライブの際に利用者の暮らしていた家の近くに行くなどしており、馴染みの方との交流をしている。また、友人が来所した際は居室やリビングを利用してゆっくり話せる、環境を作りをしている。また、過去には、以前利用していた床屋さんにお連れするなどして関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	苦手な相手は食事の席を離すなどして、お互い美味しく食べられるようにしている。 お茶の時間は職員も一緒に座り多くの会話を持てるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気のため退所されても面会に行ったりして継続的な付き合いができるように心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らしの希望の把握が困難な場合は、どのように暮らすことが最良なのか家族の思いを大切にしている	利用者の多くが病院から退院時に依頼を受けることが多く、病院に出向いて本人、家族に聞き取りを行っている。日頃より利用者の居室にてゆっくり話を聞いたり、会話が困難な場合には表情を汲み取ったり、家族に協力してもらい意向を把握するよう努めている。把握した内容は、介護日誌に記録し全職員が目を通して周知しており、介護計画にも反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	地域での関わり、独自の生活歴、ライフスタイル、個性、価値観などに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの状態を勤務交替時の申し送りや連絡ノートを使い、全職員で把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や家族等のアイデア、気づき、意見、要望を反映した介護計画づくりに努めている	介護計画は事業所内の介護支援専門員が作成し、職員が見やすいようにファイルされた資料の見開きに付けるようにしている。3ヶ月に1度の見直しを行い、全体会議で職員から提案があった内容を全職員で検討し次の介護計画に活かしている。利用者に変化があった場合には、その都度見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや状態の変化などは午前と午後に分け、二人の職員で記録し情報共有を徹底している。 個別の記録をもとに介護計画を作成している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、家族の負担にならないようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の敬老会に参加したり地域のシルバーさんに庭の手入れや野菜作りを手伝ってもらい、収穫や花見などを楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診、往診してもらうこともある。 家族同行は無理な家族がほとんどなので職員が同行し家族に結果報告(定期受診以外)をしている	ほとんどの利用者がこれまでのかかりつけ医へ受診、通院している。希望があれば近くの医院への受診や協力医の往診にも対応している。協力医には、毎週往診に来てもらい、事業所の非常勤の看護師が夜や緊急時にも対応し、万全な体制が整っている。通院や往診をした利用者の家族には月に1度、病院からの検査表と一緒に報告書を送付している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており利用者の健康管理には気を付け、早期発見に取り組んでいる。 夜間でも看護職員に報告し適切な医療につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に見舞うようにして家族とも回復状況など情報交換し速やかな退院支援に結び付けている。 退院前、全職員が交代で病院に行き作業療法士の指導のもと食事介助の勉強に行ったこともある		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ医師と職員が連携し安心して納得した終末が迎えられるように随時、意思を確認しながら取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期について、家族に説明し同意を得ている。医師の判断において、そのときを迎えた場合は、医師より家族に説明をしてもらい、再度、看取りについての意志確認をし、意向に沿うように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練はしていないが全職員が利用者の健康管理や既往歴を理解しており急変時や事故発生時の対応も会議や日々の実践の中で看護師より学んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て定期的に避難訓練を行い避難経路の確認、消火器の使い方など指導を受けている	昨年より、避難訓練を年に2回と隣接する宅老所と合同で2回の計4回行っている。事業所のわかりやすいところに、火元を3パターン想定した避難回路をわかりやすい図で示し掲示している。向かいが消防団の詰所となっており、協力体制も出来ている。日頃からストーブを使わないなど火事を出さないような工夫もしている。災害時のための飲料水や食料、ガズボンベも備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時でも人前であからさまに介護したり誘導の声掛けをして本人を傷つけないようにさりげない言葉かけや対応に配慮している	職員は接遇についての研修に参加し、利用者への尊厳や言葉かけに気をつけている。利用者に話しかける時は、わかりやすいように方言を使って語調に気をつけながら、はっきりわかるように心がけている。失禁などした場合には、他の人にわからないように誘導し着替えを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の誕生日には好みの食べ物を決めてもらっている。 難聴の方には職員が耳元で話しかけたりして曖昧な伝わり方にならないよう気をつけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心掛けている。しかし入浴や行事などスタッフの都合で決めていることも少なくない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年々、重度化しており自分で服を出して着ることも難しくなっていますが、着る服は一緒に選んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しく食事できる雰囲気づくりを大切にしている。歩くことが困難な方が多いためテーブルに用意したお盆にそれぞれ片付けてもらっている	隣接している施設の調理師が献立、調理を行い、カロリー計算や利用者の嗜好や体調に合わせたメニューにも対応している。食事は職員と一緒にとり、話をしたり利用者の好物のものを分け合ったりして楽しむ工夫もしている。おやつは手作りで蒸しパンや牛乳寒天、焼き菓子など利用者が楽しみにしている。また、誕生日には本人のリクエストに応えるなどの工夫した支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	透析や糖尿病の利用者がいるため病院の栄養指導を受けながら食事への気配りや飲水量に気を付けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方は見守り、できない方は洗面所でケアし、寝たきりの方はスポンジのブラシを使い、ひとりひとりの残存能力に適した歯磨きを心掛けている。週に1回 義歯消毒を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し尿意のない利用者にも時間をみて誘導したり、トイレでの排泄を大切にパット類も本人に合わせて検討している	排泄チェック表を記入し、利用者の排泄ペースの把握に努めている。リハビリパンツにパットを使い、自立に向け時間を見ながら声をかけ、トイレに誘導している。夜は、居室のポータブルを使用し、なるべくおむつではなくトイレでの排泄が出来るよう支援を行っている。失禁した場合には他の人に気付かれないような声のかけ方を心がけ、着替えを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し毎日牛乳とヤクルトなどで自然排便を促す工夫を個別に行っている。 体操、水分補給の徹底を行い便秘対策に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能です。拒否があっても次の日にタイミングを見て入ってもらっている。 ひとりひとりゆっくり入浴を楽しむことができるように心がけている	一日3～4人の入浴としているが、ひとりひとりのお風呂の温度の好みに合わせ、ゆっくり時間をとって入浴の支援を行っている。職員と一緒に歌を歌ったり、お話をしたりとコミュニケーションをとる場となっている。必要な場合はシャワー浴や足浴にも対応している。またお風呂の掃除は排水口もきれいに掃除されており、お風呂の水滴は拭きあげて、気持ちよく入浴できるような取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の個別の疲れ具合(外出、入浴、受診など)に応じて、個別に休息を取り入れている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬ファイルを作成し全職員が分かるようにしている。 必ず本人と職員2人での確認で服薬支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。 俳句作りが好きな利用者の作品は部屋に貼り、いつでも見られるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難な方でも車いすを利用し季節の花を見に戸外に出るようにしている。その時はなるべく自宅周辺を通り住み慣れた場所を思い出してもらっている	花めぐりのドライブや近くの散歩で、菜の花やコスモスなどを見に出かけている。家族の協力でお墓参りや自宅に少しの時間、帰宅することもある。利用者の高齢化が進むにつれ以前のような外出の支援が出来にくくなっている。事業所としても外出支援の工夫をしたいとのことである。	利用者の高齢化が進むにつれ、以前のような外出が出来にくい状況があることから、今後、状況に応じた外出支援における取り組みについての計画の工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族から預かっていることにしてほしい物は家族に相談して買っている。祭りの時はひとりひとりお金を持ってもらい賽銭箱に入れてもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話の取次ぎをして直接話してもらったり手紙の内容は本人で書いて宛名書きを職員が代筆したりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には季節ごとに壁飾りを貼り、庭の花を活けたりして季節感を出している。トイレが施設の両端にあるため自由に行ける方は混雑しないタイミングで声かけている	共用スペースには、利用者が制作した飾りつけやお花を活けたりして季節感を出している。リビングには利用者のそれぞれのお気に入りの場所があり、くつろげるスペースとなっている。天井からも光を取り入れることが出来、風通しを良くして空気の入替えを心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間が一体型な作りで全てが視界に入りやすく多少の圧迫感がある そのためソファやテーブルや椅子の配置に配慮し落ち着いたスペース作りに取り組んでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が描いた絵、俳句、写真など いつも見える位置に置き心地よく過ごせるよう工夫している	利用者本人の好きな物や使っていた物を自宅から持って来てもらっている。家族から送って来たお人形や家族の写真などを飾ったり利用者が作った俳句を職員が壁に飾れるようにするなど落ち着いて過ごせる工夫をしている。衣装ケースやテレビなどの持ち込みにも対応し、本人が過ごしやすい環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、手すりの増設や必要な目印をつけたりと物の配置に工夫している		